プレスリリース vol.1
2020 年 6 月

すみだ向島 EXPO 2020 秋開催決定!

すみだ向島 EXPO 2020 実行委員会では、新型コロナウイルス感染症の状況において、
緊急事態宣言解除を踏まえたうえ「すみだ向島 EXPO 2020」開催を決定しました。

「まち」×「ひと」×「アート」

ぬくもりを伝えるまち“すみだ向島”は、
1923 年の関東大震災、1945 年の東京大空襲という歴史の災禍をくぐり抜け、
今も「お隣さん」づきあいが生きる東京です。
“長屋文化”を背景に独自の進化を遂げ続けてきた、このすみだ向島エリアにおいて
体験型芸術祭「すみだ向島 EXPO 2020」を開催します。
コロナ禍において人と空間と時間の関係が問われる状況だからこそ
「隣人と幸せな日」というテーマを設定し、芸術と街のあたたかな結合を目指します。
本 EXPO では、
向島エリアに多く残る、住戸同士を板で仕切った一棟建ての集合住宅＝「長屋」が
戦前から育んできたユニークな生活文化の価値を、社会が変革する今あらためて評価します。
現在なお残る風景を次世代に継承していくため、
芸術を通じて内外に発信する、芸術祭を開催することといたしました。

＜展示の特徴＞

1 参加アーティスト：向島を起点としてこれまで実験や活動をしてきたアーティストの多くは各地の芸術祭で活躍しています。彼ら、向島と関わってきたアーティストを中心として、街中でプロジェクトを行います。

2 会　　場：（1）代表・後藤大輝が自ら運営や関わりがある長屋約 10 軒を運用することで、EXPO 後にも持続的な人と地域との関わりを生み出します。
（2）建築家長谷川逸子が設計した、すみだ生涯学習センター・ユートリヤ(予定)というユニークな空間を活かした企画を発信します。
（3）街中で増え続けるアートスペースや個性的な店舗等との連携をはかります。

3 テ ー マ：「隣人と幸せな日」
「隣人と幸せな日」が今回の芸術祭のテーマです。展示では、コロナ対策のため 3 密を避け、観客数を絞ったうえで、人と人とが親密な関係になる体験を提供します。コロナ禍で人と会えない状況を経験した今だからこそ、「隣人」という密な関係性にフォーカスし、「人と関わる」ことの根源を捉えなおそうと考えます。

【お問合せ窓口】すみだ向島EXPO 2020 実行委員会 事務局
090-1569-3013／sumidaexpo@gmail.com (担当：渡邉)

<主なプロジェクト>

■アーティストプロジェクト：

「隣人と幸せな日」をテーマに、アーティストが主体になり、人間の多様性を受容する住環境を考察する街中アート展

○軒下プロジェクト 開発好明

軒下提供者がアート作品を選び、EXPO 期間に展示をするプロジェクト。

○宿の家 別館/Bekkan 北川貴好

家に宿ることをコンセプトに木造平屋での宿泊体験自体を作品にした作品。

○KAB アートブックキャンプ 民泊図書館
KAB Library and Residency

アートブックの空間で宿泊体験しつつ、リモート先生と対話しながらアートブックを作る、というキャンプを行い、成果を展示。(連携企画)

○死と食と刀 東京長屋「旧邸稽古場」

食とアートを繋ぐ EAT&ART TARO と剣士 後藤佑介がコラボした、死と生を考える長屋でのアート体験。

■隣人プロジェクト：人と地域が連携することを主体として、エリアの回遊や、実際の距離空間を超えたオンラインでの交流を提供する。——隣人コンシェルジュ／スペース連携企画 など

■建築プロジェクト：建築家や地域の隣人たちが長屋文化を未来へ継承させる。
——子供ワークショップ／長屋文化継承チーム（仮）など

※EXPO 2020 ロゴおよび各関連画像を広報素材としてご用意しております。事務局までお問い合わせください。

【お問合せ窓口】すみだ向島EXPO 2020 実行委員会 事務局
090-1569-3013／sumidaexpo@gmail.com (担当：渡邉)

すみだ向島 EXPO 2020 開催概要

＜企 画 名＞ すみだ向島 EXPO 2020
＜会　　期＞ 2020 年 9 月 12 日(土)～2020 年 10 月 11 日(日)／30 日間
※会期中週に 1 日程度、休日を予定
＜開催場所＞ 墨田区曳舟エリアの街中会場約 20 カ所、長屋、アートスペース、地元協賛店舗、
すみだ生涯学習センター(ユートリヤ(予定))などを使用予定
＜チケット＞ 有料、一部無料 ※チケット詳細情報は後日発表
＜企画内容＞ 街中で約２０組のアーティストが参加するアーティストプロジェクト、建築ワークショップや実際の建築を提案していく建築プロジェクト、様々なテーマ展、地域内外の人びとやスペースを繋げる隣人プロジェクトやツアー、宿泊などの体験プログラムなど
＜参加アーティスト(第一弾)＞ (アイウエオ順)
アップデートアーキテクツ、EAT&ART TARO、居間 theater、ウチダリナ、海野良太、大洲大作、開発好明、KAB Library and Residency、北川貴好、後藤佑介、佐藤史治＋原口寛子、澤谷理裕、タノタイガ、田原唯之、角田晴美、ティトススプリー、中里和人、長谷川逸子、樋口裕一、三宅哲平

＜主　　催＞ すみだ向島 EXPO 2020 実行委員会
＜助　　成＞ 公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、公益財団法人花王芸術・科学財団
＜後　　援＞ 墨田区（予定）
＜協　　力＞ NPO 建築とアートの道場、京島長屋文化連絡会
＜認　　定＞ すみゆめネットワーク企画

イメージトレーラー映像　https://youtu.be/lAKyGd-ONcU
公式ホームページ　https://sumidaexpo.com/
公式 Facebook　https://www.facebook.com/sumidaexpo2020/
公式 Twitter　https://twitter.com/EXPO20270553350

すみだ向島 EXPO 2020 実行委員会

すみだ向島 EXPO 2020 代表 後藤大輝／GOTO DAIKI
1979 年生。茶商の孫。日本映画学校（現日本映画大学）演出専攻卒。映画、映像、建築をはじめ文化芸術に関わる様々なプロジェクトの企画制作に従事。2010 年より墨田区京島にて「爬虫類館分館（BUNKAN)」を開始。
「文花会館」「sheepstudio」「東京長屋旧邸」「平屋別館」など長屋 10 拠点の運営管理を行う。京島長屋文化連絡会会長。

芸術監督 北川貴好／KITAGAWA TAKAYOSHI
1974 年大阪府生。武蔵野美術大学建築学科卒業。2001 年より墨田区在住。既存のプレハブ家屋に無数の「穴」を開ける、空間の滞在体験を案内によって再構成する、部屋の窓から巨人が現れるなど、建築的アプローチで空間に介入し、風景を再認識させる作品を制作。建築空間のリノベーションや街を使ったワークショップなども行っている。 (link : http://www.takayoshikitagawa.com/)

アドバイザー 長谷川逸子／HASEGAWA ITSUKO
建築計画工房（株）主宰。日本文化デザイン賞、日本建築学会賞受賞、日本芸術院賞、公共建築賞（大島町絵本館)、公共建築賞（新潟市民芸術文化会館）受賞。米国ハーバード大学客員教授などを務める。ロンドン大学名誉学位授与。
王立英国建築家協会、米国建築家協会名誉会員。2018 年英国王立芸術院 第一回ロイヤルアカデミー建築賞授与。

密な人間関係の生まれる土壌が向島にはあります。コロナ禍プログラムとして３密を避けますが、人数を絞るがゆえに可能となった街中での「体験型アート観賞方法」を提案します。パフォーマンスやツアー、飲食、宿泊や滞在を通じた体験を通じ、観客が街の隣人として住人やアーティストと「密」な関係を作り、EXPO 実施後も隣人としてこの街との関わりを続けていくことを期待します。

【お問合せ窓口】すみだ向島EXPO 2020 実行委員会 事務局
090-1569-3013／sumidaexpo@gmail.com (担当：渡邉)